

学芸員に聞いてみた「○○をカードにした理由」

相馬 一行

当館では、来館されたお客様が少しでも展示を楽しくご覧いただけるよう、館内を巡りながら答えを探すクイズを行っており、クイズに挑戦された方に「博物館カード」を差し上げています。

博物館カードは、動物・植物・地質の3分野で埼玉県の自然に関するものについて作成しており、現在までに38種類のカードを作成しました。全てのカードに「どうしてこれをカードにしたのか」選んだ理由があるのですが、今回は3つのカードの理由を担当学芸員に聞いてみました。

「ミドリシジミのカード」…埼玉を代表する昆虫で、かつ見栄えの良い種類ということでミドリシジミを選びました。ミドリシジミはシンボルとして「埼玉県の蝶」に指定されており、埼玉県内の大規模なハンノキ林に見られます。幼虫はハンノキの葉を食べ、成虫はハンノキ林を飛び交い、一生ハンノキに依存した生活を送ります。オスは美しい金緑色の翅を持ち、対してメスは茶色の翅に、赤や青の模様が4パターンみられる美麗なチョウです。翅を開いても4cmくらいしかありませんが、その美しさは他の昆虫にはない魅力があります。

「岩畳のユキヤナギのカード」…ユキヤナギは庭にも植えられる身近な植物ですが、実はその自生地は洪水の影響を受ける川沿いの岩場に限られます。国内では太平洋側に点々と分布しており、博物館の目の前に広がる長瀬「岩畠」は、日本最大

の群生地です！夏、激しい洪水に襲われても、ユキヤナギは岩の割れ目にしっかりと根を張り、しなやかな枝で流れを受け流します。水がひくと、傷ついた枝からいち早く葉を出します。このカードをきっかけに、多くの人にユキヤナギの本来の姿を知り、春の岩畠に咲き誇る姿を見にきていただければと思っています。

「閃亜鉛鉱のカード」…昨年度のカード「黄鉄鉱」と入れ替わったので、おなじ金属鉱物の中から「埼玉県で産出する」「写真うつりがよい」鉱物を選びました。ほかにも「自然金」「方鉛鉱」「車骨鉱」などの候補はありましたが、閃亜鉛鉱のダイヤモンドに匹敵する強いきらめきと、繰り返し双晶が生み出す規則正しい条線がカッコイイ！…しかし標本の美しさが、カードの写真では表現しきれていないせいか、カードを手渡したときのお客様の反応はいまいち。ぜひ、秩父鉱山コーナーにある実物の閃亜鉛鉱を見て、その美しさにときめいて欲しいと願っています。

このように、担当学芸員が何をカードにするのか、毎回悩みながら作成しています。もし、博物館カードを手にする機会がありましたら、「なぜこれをカードにしたのだろう？」と思っていただけたら大変嬉しいです。

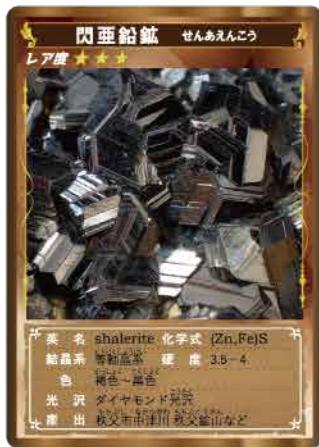
(そうま かずゆき・主任)



ミドリシジミのカード



ユキヤナギのカード



閃亜鉛鉱のカード